▲争議と笹塚氏の怪文書、

一方当会社は昨春悪思想者一派の使嗾により未曾有の労働争議が勃発しましたがかかる危険思想を当社の天地から御免蒙る事は地方産業界は勿論当会社の為にも必要有利であるといふ信念の下に社長を中心とし社員一同自覚せる工手一統の努力に依って奮鬪一百五十五日にしてその目的を達し再び平和の日を迎へたのであります。私共は之れで漸く此の作業も恢復し得るものと思ひ争議の損失を恢復すべく孜々として努めつゝあった時に争議首謀者の重役会に突如として笹塚氏の手に成れる怪文書が社長並に社長と親交ある李家・山田両氏を除く残余の重役に郵送せられました。その内容は徹頭徹尾驚くべき様な論法で会社の損失が百五十万円隠されてゐるとか所得が数十万円計上されてあるとか云ふ何等根拠のないことを書いてあるのでありますが、会社事業に絶対不熱心且無智識なる名重役はこれに驚かされ理不尽にも直ちに重役会議上に於て経営上の問題を云々し夫れが為めに争議首謀者の暗躍を長引かしむる動きを作り仕掛せしめ終身を阻止せしめました、

▲重役会の暗雲低迷

更に昨年十月十一日と云ふ重役会のある度毎に暗雲低迷の状態で重役中でも宮中小山、笹塚の諸氏等は政治的又は個人的私情から或は一種の野心に基いて天野社長に嫌がらせをやって隠退せしめんものと画策しました、その行動の陋劣なる事は吾々一職工と雖も憤慨しくして堪へられない様な事をやって居ったのであります。天野社長は恐らく今日まで個々から一回たりとも会計規約を引退すべしとの説明も聞いて居らないだらうし真心に満ちた忠告も聞いて居らない筈です。一切の画策は悉く暗夜に於ての陰でそれそれと行はれたのであります。

▲昨年末に於ける吾人の奮起、

かかる状態が三月も続いたので私共は一致しました、即ち昨年十二月末我社従業工手一千三百余名の連判状でその決心を表し、社長と職人が争議首謀者の暗躍者をもつけずに引退せしむるのは解せないではないか、その勤労は職業上の責を負はしむるといふのならば私共も重役もその責を負はなければならないではないか、争議に対する責任に在るならば共に身命を賭して働き私共も